1993年度東大海洋研大槌シンポジウム「ヤマセ研究の過去・現在・未来」の報告*

児　玉　安　正**

1993年11月16日の午後から17日の午前，岩手県大槌町にある東京大学海洋研究所大槌臨海研究センターを会場として，表記のシンポジウムが開催された．大槌シンポジウムは，1989年に東京大学海洋研究所浅井冨雄教授（現在，広島大学総合科学部）の提唱により第1回が行われて以来，毎年開催されてきたものである．5回目にあたる今回は，東北大学理学部大気海洋変動観測研究センターの川村宏助教授がコンビナーを務められ，東北地方の代表的な大気・海洋現象であるヤマセをテーマとして行われた。折しも，東北地方では戦後最大級の冷害の直後で，ヤマセに関する社会的関心が高まっていた。このためか，本シンポジウムには，研究機関だけでなく，企業や自治体，医学関係等の様々な分野から，ヤマセ研究の大先達から若手まで幅広い年齢層にわたって，例年の倍以上の約70名の参加があり，活発な討論が行われた．

本シンポジウムは，特別企画のシンポジウムと一般講演の2部構成で行われた．前半の16日午後に行われた特別企画のシンポジウムは，ヤマセの過去の研究をふまえて，現在のヤマセに関する理解を総括し，近未来の研究の方向を模索しようとするもので，幅広い研究分野からレビューを中心とした話題提供がなされた．プログラムはつぎの通りである（本シンポジウムの内容は，気象研究ノートに出版されることが計画されている）．また，このシンポジウムのあと，根本順吉氏より，ヤマセの語源や，宮沢賢治がヤマセという言葉を用いなかった理由等についての興味深い特別講演があった．

1．和田英夫（元函館海洋気象台長）
「ヤマセに関する歴史的展望」

2．卜蔵建治（弘前大学農学部）
「ヤマセと冷害」

3．井上君夫（東北農業試験場）
「ヤマセの陸上における気象特性」

4．児玉安正（弘前大学理学部）
「ヤマセの下層雲の物理過程」

5．加藤内蔵進（名古屋大学大気水圏科学研究所）
「ヤマセに関連するオホーツク海高気圧の総観的特徴」

6．木村竜治（東京大学海洋研究所）
「ヤマセの地球流体力学的側面」

7．力石國男（弘前大学理学部）
「ヤマセと海洋」

8．永田雅（気象庁数値予報課）
「ヤマセと数値予報」

9．川村宏（東北大学大気海洋センター）・十文字正憲（八戸工業大学工学部）
「ヤマセのリモートセンシング」

後半の17日午前は，ヤマセとそれ以外の話題に関する15件の一般講演が行われた．これらの講演の要旨は，東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告の第19号に掲載される予定である．

シンポジウム期間中マスコミの取材も頻繁に行われ，冷夏の影響が深刻だった地元のヤマセ研究への関心の高さをうかがわせた．この熱気をヤマセ研究の中長期的な発展に着実に結びつけていく必要がある．なお，1994年8月下旬に「93年ヤマセとその周辺」をテーマに岩手県久慈市でシンポジウムの開催が計画されている．

* Report of symposium on "past, present and future studies on Yamase".

** Yasumasa Kodama　弘前大学理学部.

© 1994　日本気象学会